

全国学力・学習状況調査について

1学期に実施しました全国学力・学習状況調査（小学6年生、中学2年生を対象）の本校の結果、ならびに結果を踏まえた今後の取り組みについて、ご報告いたします。

【 国語 】

知識及び技能に関する学習領域（「言葉の特徴や使い方」、「情報の取り扱い方」に関する事項）について良好な結果が出ています。説明文の中で、原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうか、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解できているかどうかを問う事項に対しては特に良好な結果が出ています。一方、送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかを問う事項ではやや課題が見られました。

思考力・判断力・表現力（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）に関する学習領域についても概ね良好な結果が出ています。インタビューの場面を想定した問題文の中で、目的や意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかを問う事項など、「話すこと・聞くこと」に関する事項では特に良好な結果が出ています。また、「書くこと」や「読むこと」に関しても、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかを問う事項や、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかを問う事項などで概ね良好な結果が出ています。一方、「書くこと」に関する内容で、図や表、グラフなどを用いて、自分の書き表し方を工夫できるかどうかを問う事項や、「読むこと」に関する内容で、文章と図表などを結び付けながら必要な内容を見つけることができるかどうかを問う事項については、やや課題が見られました。



今回の調査結果から、数年来、本校の授業で大切にしてきた「聴き合うことから、学びを深めていく」成果が、「話すこと・聞くこと」だけでなく、自分と異なる友達の意見からさらに物事を深く考えていく基盤となって表れていることが伺えます。また、物語教材を中心に、低学年では自分のお気に入りの場面、中学年では登場人物の気持ちの変化や感動したところ、高学年では情景を表す言葉や心情を表す言葉などの優れた表現などを、リーフレットにまとめて伝え合う活動を設け、自分で考えること、自分で選ぶことを学習の中に組み入れ、一人一人の子供が主体的に学ぶことができる機会を積極的に増やしてきたことで、「読むこと」を初め全領域の定着が図られてきたように感じます。

今後も、教材の文や言葉一つ一つに立ち止まりながら、心情や情景を自分事として丁寧に読み描いたり、文中の図や表がいずれの文や言葉と関わっているのか、図や表などを使うことでどのような良さがあるのかを実感しながら、効果的に図や表を用いて工夫して書いたりする言語活動を授業の中でも引き続き、取り入れていきたいと考えています。

また、国語の授業だけに限らず、全ての教育活動の中で、話す・聞く・書く・読むなどの様々な言語活動を通して、一つ一つの言葉や文を大切に、生活をより豊かにしていくことができるような国語及び言語能力の充実を図っていきます。

【 算数 】

知識及び技能に関する領域では良好な結果が出ています。正方形や台形など図形の性質を理解しているのかどうかを問う事項や百分率で表された割合について理解しているのかどうかを問う事項などで、特に良好な結果が出ています。また、かけ算やわり算の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いて答えを求めたりする問いでも良好な結果が見られました。

思考・判断・表現に関する領域でも良好な結果が出ています。示された日常生活の場面を解釈し、1つの式を場面と関連付けて読み取ることができるのかを問う事項や、小数のたし算やかけ算を用いて解いた文章題の答えの求め方を式や図、言葉を使って記述する問いで良好な結果が見られました。一方、わり算の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の各段階の意味を考える問いでは、やや課題が見られました。



今回の調査では、課題解決のための数量関係を判断し、自分が考えた根拠を言葉や数を用いて記述する問いに、特に良好な結果が見られました。かねてより本校では算数の授業で、学習課題に取り組む際に、どのようにして解を求めたのか、その過程を友達同士で聴き合ったり、ノートに書いたりして、自分の考えた道筋をふり返る機会を設けてきました。自分の意見を整理したり、友達の異なる意見を聴いたりすることが、自分の考えを広げ深める機会となり、思考力・判断力・表現力の向上につながったのではないかと考えています。今後は、調査で見られる課題からも、式が意味すること、筆算などの解法や図形の公式などの成り立ちや、学習課題が日常生活のどのような場面につながっているのかなどに、子供たちが意識を高めていけるような活動を、授業の中で積極的に設けていければと考えています。

今後も引き続き、授業が単なる知識や計算技術の習得の場になるだけでなく、基礎基本の知識や技術を応用したり活用したりしながら、子供一人一人が学習課題に対して主体的に探究していけるような授業を展開していきます。

【 質問紙調査より 】

国語や算数の学力・学習状況調査と共に実施しました、児童質問紙調査の傾向につきましても、本校の傾向をお知らせいたします。

- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい。」
- ・「授業の中で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていける。」
- ・「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。」
- ・「人が困っているときは、進んで助けている。」

本校では、上記のように感じている子供が多いという結果が出ました。友達とのかかわりが、子供たちが大きく成長するためには欠かせないということを改めて実感しています。

今後も学校では、上記のような「箕谷の子供たちの良いところ」を伸ばしていきながら、子供たちに生活を見つめ直す指導を継続していきたいと思っています。ご家庭でも「学校以外での読書活動」「家庭学習の充実」「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人との約束事」「1日あたりのテレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム）の時間」など、子供達と共に今一度、振り返る機会をもって頂ければと思います。